

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立海津特別支援学校

学校番号	111
------	-----

自己評価

学校教育目標	<p>かけがえのない いのちの つながり</p> <p>児童生徒がもつ可能性を最大限に伸ばすことができるように</p> <p>(1) 児童生徒一人一人の障がいの状況や、発達段階等に応じたきめ細かい教育を行う。</p> <p>(2) 仲間と共にとくましく、明るく生きる力を育む。</p> <p>(3) 一人一人が社会自立に必要な基礎的・基本的な知識・技能を培う。</p>
評価する領域・分野	「教員の実践力と専門性の向上」「進路指導」「保護者や地域との連携」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの回収率は100%である。学校に対する高い関心の表れである。また、90%以上「よい」と評価された項目が40項目中34項目あり、概ね良い結果である。 ・昨年度と比較し、高い評価に転じたものは「生徒指導(いじめ)」「健康管理」「交流活動」の3項目である。 ・「よい」評価が90%を下回った項目は、「進路指導」「安全管理」「保護者、地域との連携」「働き方改革」である。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1)安全を基盤とした環境(設備・体制)安心できる教育(内容・方法)</p> <p>(2)児童生徒の身辺的自立、社会自立に向けた小・中・高一貫した指導</p> <p>(3)地域とのつながりを大切にし、将来、地域で活躍できる人材の育成</p>
重点目標を達成するための校内組織体制	<p>(1)・個人情報適正管理 ・危機管理対応 ・教材の充実・工夫</p> <p>(2)・小、中、高での連携した継続指導 ・学校の活性化 ・全校研究</p> <p>(3)・文化祭の地域公開 ・地域への情報発信</p>
目標の達成に必要な具体的な取組	<p>(1)・重要度別分類と取り扱いの確認 ・私物情報機器の取り扱い</p> <p>・熱中症対策、天候急変時対策 ・不審者対応の徹底 ・寄付金の活用</p> <p>(2)・修学旅行、行先の見直し ・中高学部間における、作業学習の連携</p> <p>・各部重点目標の見直し ・令和8年度近隣地区からの児童生徒の受入</p> <p>・令和7年度研究取組 ・公開授業研究会の実施</p> <p>(3)・文化祭の観客制限の緩和 ・かいづスマイルサポーターの教育活動参加</p> <p>・ふれあい福祉フェア、銀行展、校外における作業製品の販売、現場作業実習、挨拶運動、校外学習</p>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの意見・感想 ・学校運営協議委員等からの意見 ・学部内・校内における教員相互の評価
取組状況・実践内容等	<p>(1)・教員用のタブレット端末の配付により、授業の活性化を推進するとともに教室等に私物情報端末の持ち込みを制限した。</p> <p>・働き方改革の取組の一つとして、管理当番の廃止に向けて取り組み始めた。更に、勤務時間外の不審者対応も徹底した。</p> <p>(2)・小、中、高の学習が一貫性のあるものにするため、修学旅行の行き先を見直した。</p> <p>・中、高の作業学習の連携として、中学部の生徒が高等部の作業学習、校内作業実習の見学を行った。また、進路支援部長から高等部及び卒業後のことについて説明を行った。</p> <p>・児童生徒の減少への対応とし、一部、令和8年度、近隣地区から児童生徒を受け入れることになった。</p> <p>・今年度より、研究主題を「一人一人の主体的な行動を導き出す指導・支</p>

	<p>援の在り方～自らできる支援環境を整える～」とし、3年計画で取組を始めた。その取組の一部として、地域公開研究会を開催した。</p> <p>(3)・文化祭の観客制限の緩和を行い、地域・関係機関・卒業生等が自由に参観できるようにした。</p> <p>・かいづスマイルサポーター（ボランティア）として、作業学習の補助、絵本の読み聞かせ、教科・集団活動・自立活動の補助等、一緒に取り組んだ。また、文化祭では、係として援助していただいた。</p>
評価の視点	評価
<p>(1)安全を基盤とした環境（設備・体制）安心できる教育（内容・方法）ができたか。</p> <p>(2)児童生徒の身辺的自立、社会自治るに向けた小・中・高一貫した指導ができたか。</p> <p>(3)地域とのつながりを大切にし、将来、地域で活躍できる人材の育成ができたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>
成果・課題	総合評価
<p>○教育目標の「つながり」を大切にし、一貫性のある教育活動を進めてきた。成果としては、次の二点である。今後の修学旅行について、段階的に深い学びができるよう行き先、日程、移動手段等を3部で検討し、決定した。また、各学部の重点目標を見直し、【心身の健康】【主体的な学び】【地域とのつながり・人間性】を柱とし、それぞれの学部の目標が次のステップへつながるように整理し、明確にした。次年度以降、重点目標に基づいて、取り組んでいきたい。</p> <p>○危機管理を重視しつつ、働き方改革を進めるということで、管理当番の廃止に取り組み始めた。試行期間を経て問題等を解決し、次年度実施していく。</p> <p>○地域公開研究会を開催し、特別支援学校の職員だけでなく、海津市教育長、近隣の小中学校校長、職員に参加していただいた。本校の教育活動について知っていただき、個に応じた児童生徒の指導・支援方法を伝えるよい機会となった。</p> <p>○地域とのつながりを大切にし、かいづスマイルサポーターの参加、MS・MS Jリーダーズによる挨拶運動・交通安全運動・清掃活動、高齢者宅訪問、校外における作業製品販売、地域を学ぶ校外学習、ふれあい福祉フェア、銀行展、校現場作業実習等、様々な活動を行った。地域の学校として根付いてきている。</p> <p>▲保護者向けの研修を2回実施したが、学部によって参加者数に偏りがあった。進路≠卒業後という意識改革を進めるとともに、どの年齢でもキャリア教育の必要性を訴え、進路指導の充実を図りたい。</p> <p>▲学校評価アンケートで評価の思わしくなかった「進路指導」「安全管理」「保護者、地域との連携」「働き方改革」について、取組状況や情報を発信していきたい。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・各部の重点目標に基づいて、小、中、高の一貫性のある教育活動を実践していく。 ・地域の特別支援学校として、様々な方法での情報発信や積極的な関わりを継続していく。 ・自己実現のために、進路学習をより充実していく。また、保護者と共に、子どもの将来を見据え、今何が必要なのかを共に考えられるよう懇談や研修等、情報発信していく。

学校関係者評価（令和8年1月29日実施）

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一年間のまとめとして、各学部の成果発表があった。どの部も創意工夫があり、児童生徒の一年の成長や頑張りが伝わる発表であった。 ・教員が児童生徒に寄り添い、明るく指導に当たっている。また、子どもの様子や状況に応じ、一人一人に合った支援をしていることがすばらしい。
--

- ・児童生徒がいつでもどこでも気持ちの良いあいさつができる。
- ・小・中・高の連携した指導の目標を分かりやすく改訂されたことは、大変すばらしい。
- ・昨今、児童青年による様々な事件が起こる。その原因の一つとして、児童生徒と教職員の距離があると考える。しかし、本校は児童生徒と教職員との距離が近く、安心できる環境である。
- ・管理当番の廃止や不審者対応の提案はすばらしい。
- ・学校在籍数の減少化が課題であったが、一部、近隣区域の子が就学する。今後、学校が活性化されることを期待する。
- ・地域公開研究会等を行うことで、地域の情報発信者としての役割を担い、障がい児教育を更に浸透させてほしい。